



緑肥・緑化の部屋 18

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q 毎年、雑草の処理に頭を悩ませています。 雑草を抑える効果的な方法はありますか？

A “アレロパシー効果”をもつ地被植物（グラウンドカバープランツ）を使うことが有効です。

本号57頁に、東京農工大の藤井教授がアレロパシー効果について書かれた連載がありますが、その中で紹介されている“センチピードグラス”を使うことがおすすめです。

センチピードグラスは和名を“ムカデシバ”といい、その地上ほふく茎（ランナー）がムカデの形状に似ていることに由来しています。そのセンチピードグラスの唯一の改良種が「ティフ・ブレア」です。

「ティフ・ブレア」の葉や根から抽出される化学物質（アレロパシー物質）は、雑草の生育を阻害する力をもっているといわれています。

また、「ティフ・ブレア」の太いランナーが幾重にも交差することで、雑草などの飛来種子が土壌表面に到達するのを抑制し、雑草を減少させる効果もあります。

最近ではそれ以外のイネ科雑草地と比べてカメムシの頭数が少なくなったという論文も発表され、斑点米

の防止対策にも期待されています。

河川敷での施行事例写真を見てください。ノシバ(右側)に比べ「ティフ・ブレア」（左側）は雑草が少なくなっています。

これらの特性が評価されて、「ティフ・ブレア」は国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録され、各地での公共事業などにも積極的に利用されています。

「ティフ・ブレア」は、定着するまでの期間、雑草に負けないように雑草と一緒に刈り込む必要がありますが、一旦定着すれば、その後の手入れはかかりません。

おかげさまで、インターネットで「ティフ・ブレア」と入力すると、1万件以上の各地の事例・試験結果などが出てくるほど普及するようになりました。この春はぜひ、「ティフ・ブレア」をお試しください。

【河川敷での施行事例(九州)】



→
美しい稲穂と「ティフ・ブレア」。

**雑草抑制芝草！
畦畔・グラウンドカバーに！**

改良センチピードグラス ティフ・ブレア®
PVP (登録名：TC312)

〈播種期〉
中間・暖地：4月中旬～7月、冷涼地：5～6月

〈播種量〉
畦畔用および牧草用：5～10g/m² (5～10kg/10a)
芝生用：7～12g/m² (7～12kg/10a)
覆土・鎮圧 播種後、5～10mmぐらいの覆土を行い板などで鎮圧する。

